

安全・安心シンクタンク運営ボード（第1回） 議事要旨

1. 日時

令和5年12月13日（水） 17:00～18:00

2. 場所

中央合同庁舎第8号館8階818会議室（ハイブリッド開催）

3. 出席者（五十音順、敬称略）

（構成員）

| | |
|--------|---------------------------------|
| 岩間 陽子 | 国立大学法人政策研究大学院大学教授（オンライン） |
| 上山 隆大 | 総合科学技術・イノベーション会議常勤議員（座長） |
| 桑田 薫 | 国立大学法人東京工業大学理事・副学長（ダイバーシティ推進担当） |
| 角南 篤 | 公益財団法人笹川平和財団理事長（オンライン） |
| 西山 淳一 | 公益財団法人未来工学研究所研究参与 |
| 橋本 和仁 | 内閣官房科学技術顧問、国立研究開発法人科学技術振興機構理事長 |
| 松本 洋一郎 | 外務大臣科学技術顧問、国立大学法人東京大学名誉教授 |
| 三島 茂徳 | 前防衛装備庁防衛技監 |

（事務局）

| | |
|-------|-------------------------|
| 松尾 泰樹 | 内閣府科学技術・イノベーション推進事務局長 |
| 坂本 修一 | 内閣府科学技術・イノベーション推進事務局審議官 |
| 萩原 貞洋 | 内閣府科学技術・イノベーション推進事務局参事官 |

4. 議事概要

(1) 安全・安心シンクタンク運営ボードの目的について

資料1を用いて、事務局から説明を行った。

(2) シンクタンク設立準備の進捗状況について

資料2を用いて、事務局から説明を行った。

(3) その他

内閣府の説明を踏まえて、意見交換を行った。主な意見は次のとおり。

- 最も重要なことの一つは人材の確保である。様々な形で分散している人材を集約、若しくは強いネットワークを作っていく必要がある。そうした人材の育成も含め、大学等との連携をもう一度模索するべきではないか。もう一つ重要なことは海外シンクタンクとの連携である。海外シンクタンクと新しく立ち上げる安全・安心シンクタンクがどのような形でネットワークを構築していくかを議論していく必要がある。人材の問題と海外とのネットワークが今の最大のチャレンジングなトピックである。
- 重要技術分野を特定する上で一番難しいのは技術を引き受ける需要の面である。クリティカルな技術シーズが出てきたときに、国内においてどのような産業、あるいは事業者が積極的に引き受けることができるのかというニーズの調査が重要である。海外の分析手法も参考にしながら、国内においてどの分野にどのような企業がいるのかを分析し、どの企業が技術を引き受けることが可能なのかを深掘りしていくべきである。そのような分析を通してシンクタンクの概略を決め、組織の在り方を含めた方向性を作り上げていく必要がある。
- 需要を見ていくことは重要なポイントである。シンクタンクでは、必ず需要を押さえた上で、技術シーズが使えるのか判断していかななくてはならない。そのためには、技術レベルだけでなく経済動向やマーケットも把握していなければならない。常に情報収集しながら分析していく能力を持った人材が必要になる。また、情報収集に長けた人材だけを集めれば良いというわけではない。潜在的なマーケットも掘り起こせるような人材、若しくは掘り起こしの仕掛けができるようなハイスペックな人材を育成していかなければならない。質の高いシンクタンクとするためには持っていないなければならない機能である。
- 今年度委託事業の調査テーマはサイバーセキュリティと食料安全保障になって

いるが、もう少し範囲を広げる必要がある。結果的にはこの2テーマになるかもしれないが、AIや量子コンピュータ、宇宙等も含め範囲を広く設定した上で議論してテーマを決めるというアプローチが要るのではないか。

- 人材の面においては、新たな人材を確保・育成していくのは非常に難しい。まずは国内の技術動向をよく把握している「経験有識者」を核にして、若手を育成していくステップを採らざるを得ないのではないか。また、人材を確保するにしても、人数の規模感等を定めた上で段階的な拡大の指針を明確に示していく必要がある。
- 経済安全保障の観点から、戦略的不可欠性と戦略的自立性の二つの軸で、我が国にとっての重要技術を特定しなければならない。大まかには我が国単独で取り組む分野、同志国と協力する分野、そして同志国に任せる分野の三つに分ける選択をどこかでしなければならない。この判断をするのは研究者やシンクタンクではなく、政府の役割である。シンクタンクを立ち上げるだけでなく、各省から優秀な人材を集め、国家的選択判断ができるような政府内の体制も整備する必要がある。
- シンクタンクの役割を明確にする必要がある。技術の視点からのアプローチについては、既存の組織で良いものができている。素材はたくさんあるので、今後立ち上げるシンクタンクにおいて、その素材を使って何をして何を決めるのかを明確にしておかなければならない。また、人材のキャリアパスも重要である。キャリアパスをしっかりと考えないと人材の確保・育成は上手くいかない。
- 海外の動向を把握することが極めて重要である。各省から各国の大使館に派遣している職員等も活用しながら、世界全体で何が起きているのか現場的感覚をシンクタンクの中でも共有しながら、次の方向性を議論していくことが重要である。
- 現場の研究者が海外を知らない状況になってきている。海外での研究を通じて大きなネットワークを作り、そのネットワークから出てくるフォワードキャストが重要になってくる。その予測からバックキャストして、我々が今やらなければならないことを考える仕組みが必要になる。シンクタンクとしては、そのような情報を政府に共有して政策提言をしていくべきである。
- 何か目に見える形で実績を作っていくのが非常に重要になってくる。実績があることで人材が集まる好循環になる。今年度の委託事業においても、こういった場

でフィードバックを受けながら、小さな成果で良いので何か具体的な実績を外に見せる必要がある。将来的には目玉になるような出版物や会議体を作り、それをトピックにして海外シンクタンク等とも連携を深めていければ、非常に価値があるものになる。

- 科学技術と経済、安全保障が交錯する分野で、全部に目配りできる人材はなかなかいない。お互いの分野で将来性のある人材を結集し、共通認識を作っていく必要がある。また、行政機関だけでなくメーカー等の民間企業も含めたネットワークを構築していかなければならない。
- シンクタンクは収入的にも時間的にも魅力的な現場であることが重要である。海外のシンクタンクにおいては、キャリアパスの中で政権の要職に就く場合があり、それが大きなモチベーションの一つになっているので、そうした回転ドアのような構造も考えていく余地がある。また、10年、20年働いたときにどのようなキャリア展開になるのかを見える化しなければ人材が集まらない。キャリアパスを含め魅力的な現場にどうやってするか考える必要がある。
- まずは政府の中枢で技術戦略の策定等の戦略的な意思決定をする組織の必要性の話があったと記憶している。それをサポートする専門的な集団がこのシンクタンクであって、政府に刺さる政策提言というのではなく、政府としてどういう意思決定をするのかをまず決める必要があるのではないか。関係省庁や民間企業まで巻き込んでインテリジェンスを集約する組織にする必要があるが、当面は、政府との間に立って走り回る、そして海外としっかり連携していく、この二つが重要である。本日は第1回なので、これから委託事業の成果も聞きながら組織や人材育成等の議論を深めていきたい。

(以 上)